

## 社会貢献活動

日本ユニシスグループは、企業理念に則り、すべての人たちとともに人と環境にやさしい社会づくりに貢献します。また東日本大震災復興に関しても、継続して支援していきます。

### 社会貢献活動方針

- ICTサービスを通じて社会に貢献します  
事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、社会貢献活動においてもICTを活かした活動を推進します。
- 社員による自発的な社会参加を支援します  
社会の期待と要請に対する感性を磨く人材育成の一環と考え、社員によるボランティア活動などの自主的な社会参加を、積極的に支援します。
- コミュニティに参画し、コミュニティの発展に寄与します

### 活動の評価とステークホルダーダイアログ

「社会の視点」と「日本ユニシスグループの視点」から取り組みを評価するとともに、地域コミュニティや寄付先、活動パートナーと積極的に意見交換を行い、取り組みに活かしています。

#### 2012年度社会貢献活動支出額

社会貢献活動支出額	44百万円
-----------	-------

集計範囲は日本ユニシス単体

### 社員ボランティアの活動事例(ファミリーハウス)

「ユニハート」の寄付先の一つである認定特定非営利活動法人ファミリーハウスは、難病の子どもとその家族のための滞在施設を提供している団体です。社内でのワークショップやパソコンボランティア講座などをきっかけに、7名の社員がICTを活かしたパソコンボランティアとして関わっています。

#### 参加社員の声

- 仕事での知識を活かすことができると思い活動に参加しました。現在は会員管理システムの再構築などの作業を行っています。今後もシステム構築のお手伝いできればと思います。
- 施設見学会に参加したことをきっかけに活動を始めました。パソコンの保守のほかに清掃なども実施しています。利用者ノートの文章を拝見し、参加して良かったと感じています。
- パソコンメンテナンスを行っており、家族からも「がんばっているね」と言われます。無理のない範囲で長く続けていきたいです。
- パソコンメンテナンスを担当しています。自分のような若い世代の社員にも、もっとボランティアの輪が広がることを願っています。

### 社会貢献クラブ「ユニハート」

「ユニハート」は、社員の自発的な社会貢献活動の推進を奨励し、社会に貢献することを目的に2006年に設立しました。現在会員は1,049名。会員自らが企画・運営を行うチャリティイベントや、NPOへの寄付など幅広く活動しています。2012年度は被災地支援を含む15団体に会員からの寄付と会社からのマッチングギフトを合わせ504万円を寄付しました。寄付先との交流も積極的に行っています。

#### 2012年度社員による社会貢献活動の実績

活動参加人数*	562名
寄付金額	4,516,346円
社会貢献活動休暇取得者数	4名

\*物品購入・物品寄付・展示会の立ち寄りなどの参加数は含まない  
集計範囲は日本ユニシスグループ

#### ユニハート寄付先の声

##### ● 特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク：SPAN

最近、視覚的・感覚的に扱うことのできる端末やソフトウェアなどが次々と出てきています。これらは視覚障害者にとって自力で情報を得ることのできる貴重なツールですが、使いこなすのには困難もあります。SPANは、講座の開催やWeb操作マニュアルの作成などを通じ、視覚障害者のICT利用を進める活動をしています。視覚障害者は情報障害ともいわれていますが、講座の受講生から「ICTを利用することによって情報を得ることができ、人生が変わった」という感想もあり、活動に責任を感じています。



SPAN 理事長  
北神 あきら 様

SPANとユニハートとの関わりは2006年からで、日本ユニシスグループ社員からの紹介がきっかけで始まりました。ユニハートからの寄付および日本ユニシスからのマッチングギフトは、パソコンやソフトウェアの購入、ソフトウェアキー操作マニュアルの制作、タブレット端末利用講座の開催などに使わせていただいています。また、講座のサポートやホームページの更新などに社員やOBの方が継続的に関わってくださっています。今後はお互いの特性を活かして、だれもがさらに情報にアクセスしやすい仕組みづくりなどでも協力していきたいと考えています。

## 継続報告 東日本大震災復興支援



### 岩手県上閉伊郡大槌町への社員派遣

大槌町は、東日本大震災における、町長以下全人口の1割に近い犠牲者を出すという悲劇を乗り越え、官公庁、全国の自治体、大学、そして民間企業などから人々が集い、地元の職員のみなさんと力を合わせ復興を進めています。

日本ユニシスグループは、2012年4月からグループ内公募により2名の技術者を大槌町役場に派遣し、ICTで町の復興のお手伝いをしています。



左から 平野様、佐藤、渡部、田中様

#### 社員の声

##### これからもICTで復興を支援していきます

大槌町 総務部総務課 (ユニアデックス)

##### 佐藤 智晃

引き続き、システムの保守や、新庁舎のネットワーク設計などを行っています。また2013年度からは、以前から実施を検討していた職員の方々を対象にしたIT教室も始めることができました。慣れない役場の事務仕事では、情報活用についての気づきもあり、それらを少しでもICTで解決していけないかと考えます。

大槌町 民生部被災者支援室 (日本ユニシス)

##### 渡部 正弥

住民の現住所や罹災証明の情報など、散在していたデータを整理してデータベース化し、2012年11月には被災者台帳システムを構築しました。直後から多くの業務で活用いただいています。役場内には有効活用されていない情報がまだたくさんあると感じており、今後整理し、情報共有・活用できるようにしていきたいと考えています。

#### 派遣先の大槌町役場の声

##### 何十年も先を見すえた町づくりを

大槌町 総務部長兼総務課長

##### 平野 公三 様

復興復興は、計画から実行の段階に移っていますが、状況や町民の方々の思いには変化もみられます。その時々状況の的確に把握し、また目先のことや多数派意見のみにとらわれることなく、何十年も先を見すえた町づくりを進めていくことが大切だと考えています。

ICTは、もはや行政に欠かせないものであり、今後ますます重要になってくるでしょう。これからも佐藤さんの経験を頼りにしています。

大槌町 民生部被災者支援室長

##### 田中 恭悦 様

防災集団移転事業や土地区画整理事業が具体的に動き始め、災害公営住宅への入居も始まり、住宅再建に関する独自支援も進めています。確実に動き出しているこれら施策の実行には、被災者の整理された正確な情報が欠かせません。

渡部さんは、県の関係者や町長の信頼も厚く、もはや大槌町になくてはならない人材です。今後は組織の枠を超え、ますます活躍していただきたいと考えています。

#### 日本ユニシス東北支店から

2013年4月に東北支店に赴任し、大槌町に何って感じたのは、出向中の二人が、町長以下役場のみなさんの信頼を得て、なくてはならない存在となっていることです。このようにがんばっている仲間がいて、また我々もICTで被災地復興のお手伝いできればと日々模索しつつありますが、何よりも震災を風化させてはいけないと強く感じています。ぜひ大勢の方に東北の地を訪れていただき、復興の現状がどうなっているか、ご自身の目と耳で実感していただきたいと思っています。

●東北支店 支店長 渋谷 裕

#### 「ユニハート」震災関連寄付

2011年度震災特別枠寄付先プロジェクトについては、寄付の詳しい用途、残されている課題などについて、できる限り被災地の生の声を社員に伝えることを意識して、社内向けに報告を行いました。2012年度も引き続き、目の不自由な被災者の方の調査や、支援物資の管理など、新規・継続合わせて二つのプロジェクトに寄付を行いました。